

機能要件確認書

提案者：

以下の項目のうち、対応状況について選択すること。

対応状況： ○…対応可能、△…代替機能等により対応可能、×…対応不可

No	機 能 要 求 事 項	対応状況	備考（特記事項、 代替案による提案など）
	基本機能		
1	資料ごとに公開する期間を分単位で設定できること。		
2	PDF閲覧時にページの特定位置を指し示すポインター機能があること。		
3	PDFのページを拡大/縮小表示する機能があること。		
4	資料閲覧用のネイティブアプリケーションではWindows11、Android、iOS並びにiPadOSの最新のバージョンに対応していること。		
5	ネイティブアプリでは利用OSごとにユーザーインターフェースに差がないこと。		
6	アプリでは、PDFのページの特定箇所に付箋を追加し、テキストを残すことができること。		
7	PDFのページに対して手書きのメモ書きができること。また、手書きメモは自動的に保存されること。		
8	PDFのページに対して実施した手書きメモや付箋等の各種情報は、資料の差し替えが発生した際にも各種情報が維持されること。		
9	PDF閲覧時に手書きメモを見るモードと手書きメモのない原本ファイルを見るモードを選択できること。		
10	手書きメモを実施した資料はPDFなどの印刷が可能な拡張子で出力できること。		
11	アプリでは、マーカーツールを利用することでPDFにマーカーを引くことができ、フリーハンドの縦線又は横線が、自動的に直線に補正されること。また、PDFのテキスト以外の場所（画像やグラフの上など）にもマーカーの直線補正が適用できること。		
12	アプリでは、カレンダー形式で会議ごとに資料を表示することができること。		
13	アプリで表示されるカレンダーは月表示と日表示を切り替えることができること。		
14	アプリ上では二つの資料を同時に開くことができ、二つの資料が同じ場合でも、両方の資料に書き込みができ保存されること。		
15	アプリではキャッシュデータの存在する資料は、オフライン環境でも閲覧することができること。		
16	アプリでは、タッチパネル上のピンチイン・ピンチアウト操作又は画面上のボタン操作で資料の拡大縮小ができ、最大16倍まで拡大ができること。		
17	オフライン環境での閲覧可能期間は、任意の期間を設定できること。		
18	アプリではログインユーザーに対して閲覧権限のある資料のみが表示されること。		
19	アプリでは閲覧権限のある資料の一括ダウンロードを待たずに資料の閲覧ができること。		
20	利用を許可された端末からのみ閲覧することができること。また、利用者ごとに資料の閲覧権限を設定することができること。		
21	利用を許可されたIPアドレスのみ閲覧することができること。また、設定するIPアドレスは利用するアプリのOSごとに選択できること。		
22	アプリでは左右の画面に同一の資料のみを表示するモードと別々の資料を表示するモードを選択することができること。		
23	アプリの同一の資料のみを表示するモードでは、左画面に表示する資料を切り替えると、右画面に表示する資料も連動して切り替わることができること。		

24	アプリでは各審査会委員が各申請者資料を見ながら、任意の事前判定値を入力することができること。		
25	アプリでは、要介護度、認定期間及び自由記述の各項目から事務局が設定した項目の情報を入力することができること。		
26	アプリでは各審査会委員が入力した事前判定値をいつでも変更することができること。ただし会議事務局が入力を締め切った以降は、変更することができなくなること。		
27	アプリでは、介護認定審査会資料が登録されている画面上に必要な応じてWEB会議を起動するURLを表示させることができること。		
28	全ページのサムネイルを一覧表示し、任意のページへ即座に移動できること。		
29	任意のページに設定した「しおり」を一覧で一括管理し、アクセスできること。		
30	最近閲覧した文書ファイルの履歴を表示し、再アクセスを容易にすること。		
31	同一ユーザーであれば、異なる端末からログインしても、保存したメモ情報を共通して閲覧・編集できること。		
	会議機能		
32	会議参加者及び日時を指定した会議を作成することができること。		
33	会議には権限を与えられた参加者のみ指定された資料を閲覧することができること。		
34	会議の参加者は、自分の意思で同期モードと同期しないモードを選択できること。		
35	会議の発表者のページ操作は、参加者が操作をしなくても、画面が同期されること。		
36	アプリのすべての種類の画面同期において、会議の発表者と参加者どちらの状態でも現在画面同期に参加しているユーザーの一覧をリアルタイムで確認できること。		
37	発表者が操作する場合、資料表示、ページ送り、ポインターなどの動作は、会議に参加している参加者のタブレット端末に、発表者画面と同じ画面が表示され、会議進行ができること。		
38	会議の発表者の手書きメモは、参加者のタブレット端末にも表示することが可能であること。		
39	審査画面において、対象者の「年齢・性別・被保険者区分」等の基本情報を常に表示できること		
40	各委員が入力した事前審査の結果をシステム内で自動集計できること。		
41	2次判定結果の入力時、要介護状態区分や有効期間の選択肢を、本市の運用に合わせて柔軟に設定できること。		
	管理機能		
42	利用には、ユーザー認証が必要であること。		
43	資料の登録、削除などの管理者操作は、PCブラウザから操作できること。		
44	ダウンロード済みの資料は、あらかじめ定めた公開期間終了後に、タブレット端末から自動で削除されること。		
45	ユーザーの持つ権限により、アクセスできるフォルダー及び資料を制限することが可能であること。		
46	管理者によるパスワード変更が可能であること。		
47	管理者は、サーバー内に自由にフォルダーを作成し、資料を格納することが可能であること。		
48	管理者サイトでは、会議資料をシステムに登録する際、一つのまとまったPDF資料から申請者単位に自動的に分割し、別々のファイルとして登録できること。		
49	管理者サイトで申請者ごとに分割されたファイルの分割する位置は任意のページに変更できること。		
50	管理者サイトでは、フォルダーや資料の登録画面とは別に、アプリのカレンダーに表示される会議を設定するための専用画面が用意されていること。		

51	会議のカレンダーを作成する際、既に登録済みの資料のうちから各フォルダーを横断し必要な資料だけを選んで会議を作成することができること。		
52	過去に作成した会議情報は、意図的に削除しない限りカレンダーに表示され続け、参加者はいつでも資料を見返すことができること。		
53	管理者サイトでは、アプリでダウンロードした資料のページ数を紙の枚数に換算し、環境への貢献度や業務改善効果をシミュレーションすることができる機能があること。		
54	管理者サイトでは、各審査会委員が入力した事前判定値を一覧で確認することができること。		
55	管理者サイトでは、各審査会委員の事前判定値が一致しない申請者は強調表示され、容易に視認することができること。		
56	管理者サイトでは、二次判定結果を入力することができること。また、二次判定結果及び各審査委員の事前判定値をCSVデータ等の情報で出力することができること。		
57	各審査会委員はお互いの入力した事前判定値を閲覧することはできないこと。ただし、会議事務局が公開設定をした以降は全員が閲覧することができること。		
58	資料上の任意の個所に黒色や白色などの色で図形挿入やペン書き操作などで資料へのマスキングを実施することができること。 また、マスキングを実施した箇所の背景にある文字情報が読み取れなくなる配慮が実施されていること。		
59	管理者サイトで、ユーザーID及び認証端末の追加・削除ができること。		
60	利用者数やデータ保存容量を、必要に応じて随時増減できること		
61	管理者用PCから、ファイルを選択してドラッグ&ドロップする簡易な操作で資料登録・削除ができること。		
62	資料登録後であっても、管理者がフォルダの構成や階層を自由に変更できること。		
63	委員の交代や事務局の組織変更・人事異動の際、ユーザー情報やグループ設定を容易に一括変更できること。		
64	ユーザーを合議体などのグループ単位で登録・管理でき、権限設定を一括で行えること。		
65	審査会の参加メンバー設定や資料フォルダ構成を、別の会議へ一括で複製（コピー）できること。		
66	該当する合議体に関係のないユーザーやグループに対して、会議の日程自体を表示させない制限ができること。		
67	資料やフォルダを削除する際、即時完全削除ではなく、一時保存領域から任意に復元できる対策がとられていること。		
68	審査対象者情報や各種資料を、個別登録だけでなくCSVインポート等により一括登録できること。		
	セキュリティ		
69	アプリでは、端末には暗号化された状態で資料をダウンロードすることができ、アプリを通じてのみ復号化することが可能であること。		
70	サーバーと端末間の通信経路は、暗号化通信をしていること。		
71	端末認証・ユーザー認証をした端末のみが資料を閲覧することができること。		
72	管理者は利用者の端末をアプリ内の固有番号を用いて特定することができること。		
73	アプリでは、オフライン状態のまま7日間経過後に、オフラインでアプリにログインすると端末内に保存した全てのキャッシュデータを自動削除する機能があること。		
74	修正パッチの適用やセキュリティホール対策などの日常的な監視・管理を行うこと。		
	クラウド（データセンター仕様）		
75	データセンターは、24時間365日の運用及び利用を実現すること（サーバーメンテナンス期間は除く。）。		
76	データセンターは、免震設備・制震設備を有していること。		

77	データセンターの消火設備は、窒素ガス消火設備を有していること。		
78	建物の出入口に防犯対策が講じられていること。		
79	データセンターには事前に登録された者のみが入館できるよう管理されていること。		
80	無停電対策として、異系統による2系統の電源を受電し、一方の送電が停止した場合でも受電が継続され、両変電所からの送電が完全に停止した際のための自家発電設備及び電圧・周波数安定化装置による対策がとられていること。		
81	サーバーへの不正アクセスや情報漏えい、ウィルス感染などに対するセキュリティ対策が万全であること。		
82	データセンターの設置場所は、日本国内であること。		
83	データセンターは、情報セキュリティ管理策の実施基準である「ISO/IEC 27017」に登録されていること。		
84	データの損失を防ぐため、日次でのバックアップを自動で実施すること。		
85	データセンターにおいて24時間365日の監視体制を敷き、障害発生時に直ちに復旧できる体制であること。		
	その他		
86	利用端末のOSやブラウザのアップデートに随時対応し、無償で最新の稼働環境を提供すること。		